

事業名	みんなで心に響く打楽器つくっちゃお♪～アートで個性の交流を！～
-----	---------------------------------

【当初計画の事業目的(取組課題)と実施効果】

【事業目的】

身体的、知的障がいを持つ方(大人も子供も)たちと、地域の方をつなげるプロジェクト。協働団体に子ども文化センター(児童館)・地域子育て支援センターとし、障害のある子たちと健常児と合同で開催、地域で協力できるイベントにする。

○オリジナル打楽器制作で、個々のアーティストを引き出しそれぞれの作品を一緒に空間で作り上げる。生の本格打楽器との合奏を気軽に楽しむ体験型コンサート。見る、聴く、触る、そして、作るという項目を加え、五感に刺激し、参加者同士が日々の生活を忘れるようなリラックスする空間で一緒に音楽アートで楽しむ日とする。プログラムは子供たち、参加者が一般的に親しみのある曲を世界の打楽器で聞き、オリジナル楽器と本格楽器の調和ハーモニーを楽しみ、プロが使っている本格打楽器に触れてみる機会を設け、本物の楽器の迫力を気軽に体験してもらおう。

○今までイベントに出かけられない状況下におかれていた放課後等デイサービスや発達児童センター、などの児童たちに、子ども文化センターに出向いてもらい、地域の親子、こどもたちと交流し、お互いの施設の理解を深めてもらう。また生活介護事業所の利用者などの施設には地域の方にコンサートに来てもらい交流する。障がいのある子供・方たちが地域に見守られる協力体制を考えていく一歩とする。また障がいを持つ子の母親や家族は周りに相談できる人、機関があまりないと感じているので、コロナウィルス影響でイベント不足により子供の成長を止めない・障害を持つ方、またその周りの家族が孤立しないことが目的。コロナで閉鎖されていた施設もようやく解放され、他との協働により地域全体で見守る子育てへの橋掛かりとする。

○昨年度までの事業からの拡充・発展について

今まで信頼関係のある障がい者施設のみだった公演を地域の施設に会場を移し、健常児と合同でおこなう。(参加者もより多くの人数になる。)

新たに子ども文化センターや地域子育て支援センターなどともつながりを広めていく。

場所によっては地域の方との交流をし、お互いに理解や助け合う街への一歩とする。

障がい児の保護者にも施設や行政との橋渡しをする。

【取組課題】

○この事業によりどんな障がいや問題を抱えていても、母親・家族が一日一日の瞬間がかけがえのない時間である事を実感し、「特別の一日」を創り上げる。音楽・アートの絶大なる影響力によってその目的を達成させる。イベント開催日にお互いの施設の交流によって母親や保護者・家族、障がい者・障がい児自身を今後も手助けしてくれるように思える人材を地域の中で見出す。悩みを抱える母と家族を助ける人材への橋渡し、役立つ場所・施設、の周知・発信。イベント開催が施設側、行政側にとって潜在的に問題を抱える母親達・家族たちを探し出す機会にもする。

【実施効果】

このイベントが開催されたことによって障害を持つ方が3年近くリアルで経験できなかった心から芸術を楽しむ事ができる。また閉鎖された地域との交流を復活もしくは始める。

1. 打楽器の特性を生かし障害を持つ方が最大限楽しめるイベント

打楽器は障害のある全ての方に万能な楽器である。振動がとても大きいので耳が聴こえなくても音を感じることができる。またバチや手元の動きが見ても楽しむことができる。自分たちの創造性を生かした手作り楽器はどんな方たちも自分たちの最大限できることで一緒に演奏することができる。世界の打楽器を聞いてもらい、世界が広いことに気づいてもらえる。間近で見られる演出の多さに最後まで飽きないで楽しめるコンサート。

手作り楽器は派手な色のキットやもこもこの手触りのキットなど、目が見えなくても手触りの違うもので楽しめるようにする。

2. 障がいをもつ子供、大人の家族へのフォロー

また施設の子・利用者が地域の子供たち・地域の方たちと一緒に触れ合うことで母親同士・家族同士・地域との関わり、あ

らゆる「社会との関わり」が出来、子育て情報や障がいについての情報を得る機会となる。また、イベント開催することによって社会・行政の方から子育てに困難を極めている母親・家族達に気づく可能性が高まる。母親・家族たちはこれを機に悩みを共有できる仲間作りや、相談やカウンセリングが出来る機関を知るきっかけとする。子育てで安心・安全な居場所を知ってもらう。

【実施結果(成果)】

日程	時間	開催場所	招待した放課後等 デイサービスなど	こども文化センター 一般参加者	参加人数
9月16日	1330～ 1430	浅田こども文化センター	放課後等デイサービス夢門塾	わくわくプラザ、地域の子供たち	47
11月29日	1030～ 1130	川崎こども心理ケアセンターかなで	川崎こども心理ケアセンターかなで	施設小学生、中学生	25
12月27日	1400～ 1515	宮内こども文化センター	放課後等デイサービスリアライズ溝口	わくわくプラザ、地域の子供たち、未就学児親子、近隣保育園	45
1月27日	1330～ 1445 1500～ 1615	南河原こども文化センター	放課後等デイサービス サンライズ かしまだ・つかごし	わくわくプラザ、地域の子供たち、未就学児親子、近隣保育園	52+41 (2回公演)
2月12日	1330～ 1445	梶ヶ谷こども文化センター	放課後等デイサービスホップステップ梶ヶ谷	地域の子供たち・未就学児親子	27
2月17日	1400～ 1515	宮崎こども文化センター	児童発達支援センターToday is new life	地域の子供たち・未就学児親子	34
2月25日	1330～ 1445	白幡台こども文化センター	放課後等デイサービスウイングみやまえ	地域の子供たち・未就学児親子	50

【実際の効果と課題】

自己評価として 今回のテーマに沿った理想の形のコンサート細分化に時間がかかった。手探りの状態の中ずっと開催されていたが時間をかけ会を重ねるごとに改良され、最終日に地域の方と障害のある方が交流できる一番良い形となった。また市民活動センターを通して全市のこども文化センターに開催希望調査の案内をお送りし、希望のあったセンターの近隣にある放課後等デイサービスに来場を打診することで交流を図った。

アンケートの「楽しかった」の評価90パーセント以上。

意見抜粋として

- ・障がい隔たりなく素晴らしい音楽を聞かせていただき有難う。
- ・楽器作りの際には各団体ごとにテーブルが分かれていたり、楽器体験の際には一つ一つアルコール消毒がされていたりと十分にコロナ対策がされていると感じた。
- ・子供たちの触れ合いの場が出来たり普段コンサートなどに参加しづらい児童を参加させることができた良い機会であり、良い制度だと感じた。子供にこのような機会を作ってくれて有難う。

○オリジナル打楽器制作

それぞれの児童が長い時間かけてオリジナリティをだしてくれた。障害のある子どもたちは、普段の様子と違って集中する姿にスタッフの方も驚いていた。またサポートの必要な児童は演奏者も含めた各施設スタッフとの触れ合う時間となった。

○障がいのある児童の外部との交流

開催施設への説明から時間が必要であった。普段いかに障がいのある児童、当事者家族以外、意識的に暮らしていないことがわかった。障害のある方々が孤立化しないためにも、このような企画、イベントが特別なものではなく普通化され、そのためには定型発達者の意識自体を若いころから多様性の精神を養う必要があると感じた。

【期待していた実施効果について】

1. 打楽器の特性を生かし障害を持つ方が最大限楽しめるイベント

参加者のアンケートからも、触れ合う体験や、打楽器の迫力が魅力的であったという意見から、すべての児童が打楽器だからこそその良さを感じる事ができるイベントであったとうかがえる。この楽器編成については必須な組織であると感じた。

2. 障がいをもつ子供、大人の家族へのフォロー

こちらについては一番成果が不透明な結果であった。障がいのあるお子さんたちご家族には好評であったであろうという予測にすぎなかった。成果を可視化するためにも、簡単なアンケートを後日とる必要があった。

この企画を開催施設に「ご理解・ご協力いただくための時間」が一番の難点課題であった。障がい者の方が地域の方と今後も「継続的につながる」ためには何より「時間」そして「お互いの意識」をもって「継続的に交流」していくべきであると思った。具体的には「イベントがなくても放課後等デイサービスのお子さんたちが子ども文化センターに普通に遊びに来る」という近い未来のある日こそが今回の一番の成果となりうる。そのための我々の今回の行動は重要な小さな1歩となりえたとは実感できた。地域で見守る障がい者の方々への行動は時間と共に長い歴史に変えていくことを願いながら継続していきたい。